ELV Newsletter Vol. 68 2014.11.1
jaera Japan ELV Recycler's Association
日本ELVリサイクル機構 ニュースレター （ELV Newsletter）
《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構　広報部会長　永田 則男
一般社団法人 日本ELVリサイクル機構　〒105－0004　東京都港区新橋3丁目2－2　一美ビル5F
TEL：03－3519－5181　FAX：03－3597－5171　メール：jaera-homepage@elv.or.jp　URL：http:www.elv.or.jp/

産構審・中環審 第33回合同会議 開催

引取業者・流通業者に対するヒアリングを実施

ヒアリング対象

1. 一般社団法人
   日本自動車販売協会連合会
2. 一般社団法人
   全国軽自動車協会連合会
3. 一般社団法人
   日本中古自動車販売協会連合会
4. 一般社団法人
   日本オートオークション協議会

10月2日、産業構造審議会産業技術環境分科会廃棄物・リサイクル小委員会自動車リサイクルWG中央環境審議会循環型社会部会自動車リサイクル専門委員会の第33回合同会議が行われました。

この会議を通じて検討する課題は以下のとおりです。

① 自動車における3Rの推進・質の向上
② 自動車リサイクル制度の安定的かつ効率的な運用
③ 今後の自動車リサイクル制度のあるべき姿

1．一般社団法人日本自動車販売協会連合会

□ 会員1,156社に対して行ったアンケートによると、使用済み車として引き取った台数のうち、有償が53%、無償が41.7%、逆有償が5.3%。逆有償のほとんどは運搬費用であり、車本体の逆有償はない。

2．一般社団法人全国軽自動車協会連合会

□ ダイハツ東京販売（株）の場合、数社の解体業者と契約し、引渡しは全数有償。1台当たりの引渡価格は、16,910円。（過去1年間の平均価格）

3．一般社団法人日本中古自動車販売協会連合会

□ 使用済自動車となるパターンは以下の2つ。
　Ａ ： ユーザーの意思で所有車解体
　Ｂ ： 販売店下取車だったが、販売不調でやむなく解体

□ 現実にはＡのパターンはほぼなく、大半がＢのパターンで対応。

□ 収支でいえば、Aのパターンは均衡もしくは若干の収益あり。
Ｂのパターンは時間の経過とともに赤字になることもある。

□ Ａのパターンの場合、実態としては引取業者ではなくて、
取次業者としての役割をしているといった状態。
→ ほとんどの事業者が引取業者をやめてしまっているため。

（次ページに続く）→

目 次

巻頭言 …… 1
トピックス
産構審・中環審合同会議 …… 1-2
本部活動ニュース …… 2
関連団体ニュース …… 3
ブロック・地域ニュース …… 4-5
自再協からのお知らせ …… 5
鉄スクラップ最新情報 …… 6
行事予定・お知らせ …… 7
編集後記 …… 7

巻頭言

損保協会のユーザーアンケート（2013年10～11月調べ）によれば、リサイクル部品を使った97%の方が「満足」と答えました。現在、ドアやバンパーなどに多くのリサイクル部品が活用されています。先日地元の環境フェスタに参加し、自動車リサイクル部品で環境やCO2削減につながるアピールを行いました。しかし、認知が足りていないと感じられました。信用・信頼される事が重要だと思いました。10月は、全国的に3R月間にも取り組んでいますので、リサイクル部品の促進、資源の有効活用に努力してまいります。

（広報部会　伊地知　志郎）

4. 一般社団法人日本オートオークション協議会

□ ELV機構との意見交換を定期的に行っている。
□ 以下を周知している。

● 商品車と判断する場合の共通認識

以下の3点をいずれも満たすこと。

① 自動車リサイクル法の引取報告がされていないこと
② 所有権変更に必要な書類があること
③ 自動車リサイクル法上認められていない部品取りがされていないこと

※複数回流札した車両は、流札回数と市場価値との関連性は認められないため、出品の制限は行わない。

次回は平成26年11月11日14時～16時30分で行われ、

□ 環境配慮設計の取組
□ 使用部品、原材料等の情報提供
□ 新素材、新技術その他逆有償化の要因となり得る物への対応
□ リサイクルに要する費用の推移及び低減に向けた取組
□ ASRの安定的・効率的な処理 ： ASRリサイクルの詳細（欧州制度との比較、リサイクル率の内訳等）

・・・などの視点から自動車製造業者である日本自動車工業会と日本自動車輸入組合へのヒアリングが行われる予定です。

（株式会社大八商会　小宮山　敬仁）

本部活動ニュース

規格策定準備委員会を発足

平成26年1月より「自動車補修用リサイクル部品の規格策定に関する研究会」が経済産業省の主催で5回開催され、8月に中間報告が取りまとめられました。

ELV機構では、この中間報告を受けて「規格策定準備委員会」を発足しました。この委員会は、ELV機構の長谷川副代表理事が委員長を務め、委員として日本自動車リサイクル部品協議会の清水会長、日本トラックリファインパーツ協会の宮本代表理事らが参加しています。現在は、規格策定において経済産業省の支援を受けられるよう支援制度のテーマ提案に向けて検討を行っています。（下図参照）

▼規格策定に向けた準備の流れ

この規格策定では、ユーザーが部品の状態を把握したうえで利用選択ができるようにすることを目指し、各々の部品の規格を定めるのではなく、ベースとなる利用選択のための情報の共通化を図って提供するといった形を考えています。

環境省事業説明会を開催

本年度の環境省受託事業「平成26年度低炭素型3R技術・システム実証事業」の実施に向けて、対象地域である関東ブロック・中国地区にて事業説明会を開催しました。概要は以下のとおりです。

▼開催日程

関東ブロック：10月10日／中国地区：10月23日

▼説明内容

回収対象：プラスチック品目
→ バンパー、内装材（PP）
予定重量：それぞれ50トン程度（計100トン程度）

自動車リサイクラーズ国際会議（IRT）、釧路にて開催

10月2日～4日、北海道の釧路で第8回自動車リサイクラーズ国際会議（IRT）が開催されました。この国際会議は、2005年にベルギーのブリュッセルにて初めて開催され、今回で8回目を迎える解体業者の世界大会です。

参加者は、アメリカ、カナダ、オーストラリア、マレーシア、インド、中国、スペイン、韓国など海外9ヶ国55名を含む総勢238名です。会議の内容は、「カントリーレポート」と呼ばれる各国の事業状況の報告を行い、自動車リサイクル事業者の抱える様々な問題を世界レベルで検討し、その結果を地域や国家、地球環境の改善や資源の有効活用の還元に貢献しようというものです。

アメリカやオーストラリアの報告は、日本と問題点も類似しており、以下のような発表がなされました。

① 行政からの協力を得ながら業界のイメージ改善や社会的地位の向上を図る。
② 地球環境の改善や資源の有効活用に努める。
③ リサイクルパーツの規格や資格認証制度など共通の基準作りを行う。

日本の代表として報告を行った株式会社ユーパーツの清水信夫会長は、リサイクル部品の利用によるCO_2削減効果を数値化し、流通システムと連携したCO_2削減効果情報提供システム「グリーンポイントシステム」を中心に発表され、海外のリサイクラーから多くの注目を集めました。国ごとに自動車リサイクルの事業レベルや取り巻く環境の差があることを改めて示すものとなり、日本は自動車リサイクルの先進国として今後の国際展開を期待されています。

（広報部会　木村　香奈子）

JTP、第13回定時総会を開催

10月18日、一般社団法人　日本トラックリファインパーツ協会（JTP）は、第13回定時総会及び講演会・懇親会を開催しました。開催地は宮本代表理事体制初の総会ということで大阪での開催となりました。

当日、総会ではJTP加盟店44社のうち44社45名が参加されました。また、今回初めて総会後に外部から講師を招いての講演会が行われ、その後の懇親会と合わせて総勢65名が参加されました。ELV機構からは奥野事務局長が参加しました。

NGP、第28回定期総会を開催

10月27日、NGP日本自動車リサイクル事業協同組合は、東京・品川にて、第28回定期総会及び記念講演会・懇親会を開催しました。

懇親会にはNGP組合員も合わせて約320名が参加され、ELV機構からは奥野事務局長が参加しました。懇親会は長谷川理事長のご挨拶に始まり、来賓の方々のご挨拶の後、公益財団法人交通遺児育英会と公益財団法人ベルマーク教育助成財団への寄付金贈呈やビンゴ抽選会などの催しも行われました。

東北ブロック、秋田県にて地域団体合同交流会を開催

第3回東北ブロック地域団体合同交流会が10月18日（土）に秋田県は田沢湖近く乳頭温泉鶴の湯別館「山の宿」にて開催されました。

会議に先立ち、経済産業省製造産業局自動車課自動車リサイクル室長金澤信様より直近の自動車リサイクルを巡る動向の報告、一般社団法人自動車再資源化協力機構管理部マネージャー三渕亮様からはフロン類・エアバック類適正業務の重要ポイントとお二人からご講演をいただきました。

会議では東北6県の地域団体長より近況報告があり、各県とも共通して使用済自動車の仕入れ環境の厳しさを訴えていました。また、河村二四夫代表理事からは機構本部活動報告ならびに計画が発表され、資源循環の推進を目的とした貴金属類の共同出荷事業への協力要請や法令遵守の徹底の必要性を述べられました。

会議後は秋田県の佐藤勇輝理事長のご尽力により、「山の宿」を完全貸切として参加者28名は秘湯の湯を存分に満喫し、懇親会で懇親を深めました。懇親会では各県から持ち寄った自慢の地酒のきき酒大会も行われ、宮城と福島の地酒が優勝を分かち合いました。最後に次回開催地をジャンケンで決めることになり、次回は平地ブロック長のお膝元である宮城県に決定し、和やかなうちに交流会は終了しました。

（福島県自動車リサイクル協同組合　代表理事　田村　幸男）

埼玉県にて関東ブロック会議を開催

平成26年10月26日（日曜日）に関東ブロック会議が行われました。

自動車リサイクルを巡る動向　（経済産業省 ： 金澤信様）

金澤室長に資料公開の了解をいただきました。添付ファイルで会員さんに配布していただいても構わないとのことでしたのでこちらからご確認ください。（※閲覧には会員専用パスワードの入力が必要です）

フロン類・エアバッグ類適正業務の重要ポイントについて　（自動車再資源化協力機構 ： 三渕亮様）

☐ ISO規格エアバッグ一括作動ツール：2014年以降の国産車・輸入車含め対応。12月販売開始等。

各地域の取り組み状況の報告

☐ 東京都：入庫の減少、今年も1社廃業、会員数の減少。
☐ 埼玉県：会員数は13社。鉄・非鉄の相場を鑑みながら買取相場の情報共有。
☐ 千葉県：解体の許可更新をしない会員のために賛助会制度。
ヤード設置適正化条例の検討会議に参加。現時点で施行内容・時期は未定。
☐ 山梨県：他県からの参入業者もあり引取台数減少。販売店さんに足繁く通い、車を回してもらえるようお願いしている。組合員同士は仲良く共同出荷等行っている。
☐ 栃木県：新たに2社入会。ELV機構のメリットが伝われば会員数が増えるのでは？
☐ 茨城県：皆と同じで入庫の減少が悩み。

平成26年度上期事業報告

☐ 業界3団体（日本自動車リサイクル部品協議会・日本トラックリファインパーツ協会・当機構）が集まり、連携強化のため機構内に3団体連絡会議を設置等。

全体意見交換

☐千葉県で検討されているヤード設置適正化条例の詳細。
☐年間130億円の輸出時のリサイクル料金還付金の有効活用等。

（株式会社大八商会　代表取締役　小宮山　敬仁）

大阪組合、組合PR活動を実施

組合の広告入りポケットティッシュ

10月は「3R推進月間」です。これに合わせて大阪自動車リサイクル協同組合では、10月9日15時より毎年恒例となっている組合PR活動を行いました。

この活動は、組合活動の周知によって自動車リサイクルの促進を図るためのものであり、当日は、9名の組合員が参加して同組合の広告が入ったポケットティッシュを2,000個配布しました。

沖縄県リハ、消防や警察も参加

沖縄ブロックでは、10月25日、うるま市消防本部会議室にて、「自動車リサイクル士制度認定講習会リハーサル」を開催しました。

当日は、沖縄ブロックのインストラクターの他にもうるま市消防本部職員や沖縄警察本部機動隊（災害救助係）など計37名が参加し、解体工程の実務及びフロン類の取り扱いなどの講習を行いました。

自再協からのお知らせ

「リコール対象エアバッグ類装備車台」の移動報告画面表示変更についての詳細はこちらをご確認ください。

http://www.jarp.org/news/2014/airbag141028.html

1.「リコール対象エアバッグ類装備車台」の移動報告画面表示変更

（以下の改善を行い、11月1日より変更）

■引取工程の使用済自動車の引渡報告画面での表示追加（参考表示）

引取工程における使用済自動車の引渡報告画面にて、リコール対象エアバッグ類装備車両については背景色が「オレンジ」で表示。

■車台詳細情報画面での表示（解体工程）

リコール対象となっているエアバッグ類部位の背景色が「オレンジ」で表示されます。また、リコールについてのメーカーからのお知らせが追加となり、対策済みステッカー番号が表示。

※今後、リコール対象エアバッグ類装備車台の確認は電子マニフェスト画面で行ってください。

2. ISO規格一括作動対応車両導入

（国内メーカーは2014年1月以降の新型車・モデルチェンジ車からISO規格対応車両を本格導入）

■ISO規格エアバッグ一括作動ツール販売

自工会/自再協はISO規格専用ツールを開発し、2014年内に解体業者に向けたツール販売を開始。（※詳細は11月中に案内予定）

■ISO規格の特長

①対応車両の拡大
→ 国産車＋輸入車（一部除く）

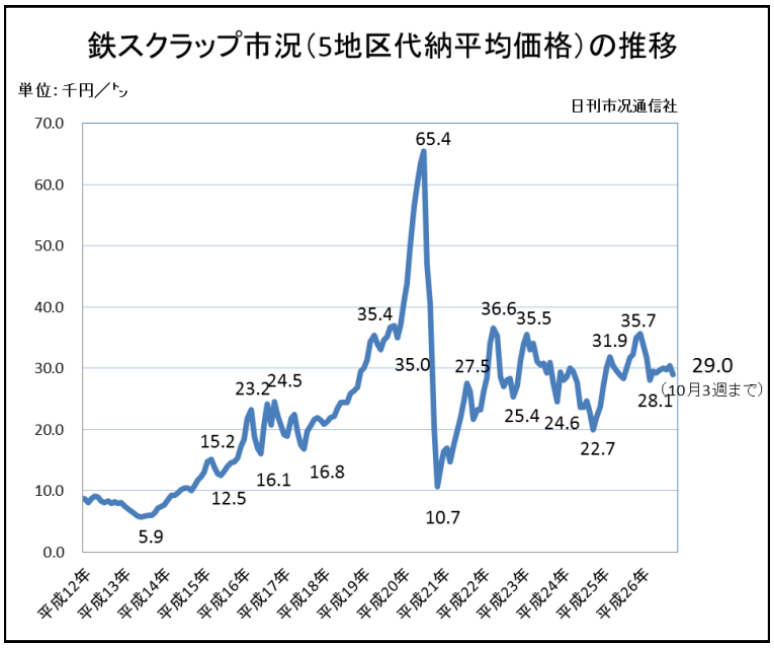
②作業性の向上
→ 接続位置が運転席ダッシュボート内側に共有化されているOBDコネクタを利用。

③処理結果の記録・保存
→ ツールに実績記録が保存され、処理結果をパソコンに出力・保管可能。

鉄スクラップ最新情報

■ 10月第4週（23日）の鉄スクラップ動向 ■

［ 提供／日刊市況通信社 ］



10月23日の国内スクラップ炉前実勢価格

		H2	気配
関東	北関東	28,500 ～ 30,500	値下がり
	南関東	28,500 ～ 30,500	値下がり
名古屋		29,000 ～ 30,500	値下がり
関西	大阪	29,000 ～ 30,500	値下がり
	姫路	28,000 ～ 28,500	値下がり

韓国向け輸出価格が大幅下落　現代製鉄がH2：26,000円（FOB）提示

韓国向けの鉄スクラップ価格が先行して下落している。現代製鉄が22日に提示したH2に対するビッド価格は1ﾄﾝFOB 26,000円（12月積み分）。10月上旬に提示した前回価格から6,000円安と大幅に下落した。日本側が当初予想していた価格帯（27,500～28,500円どころ）も下回った。

今回のビッド価格については「日本国内相場と比べて大きな隔たりがある」（関東シッパー）と指摘する声もあるが、一部の日本側が成約に応じたとの情報もあり国内相場の弱気材料となることは必至の情勢だ。

また、貿易筋によると現代製鉄は直近のロシア側との商談でA3玉に対してCFR295ﾄﾞﾙを提示したもようだ。直近の成約価格から28ﾄﾞﾙ下落。ロシア玉に対しても成約価格の大幅な引き下げを求めた。

韓国ミルは製品市況が低迷していることや、スクラップヤード在庫が高い水準にあることを背景に10月入り後も国内玉の購入価格を引き下げている。現代製鉄は今週に入り来週からの購入価格を引き下げると発表。11月入り後も追加値下げを実施する見通しだ。

【関東地区】南関東電炉が追加値下げ　湾岸筋の集荷減で

関東地区では、南関東電炉3社が23日、鉄スクラップ購入価格の追加先行値下げを発表した。値下げ幅は1ﾄﾝあたり500～1,000円。市中業者筋が出荷を急いでいることに加え、船送り数量の減少で湾岸商社・シッパーの集荷意欲が低下しているため電炉入荷が好調。荷受制限なども予想され、引き続き弱含みの推移を続ける見通しだ。H2炉前実勢価格は28,500～29,500円中心、高値30,500円見当。H2浜値は27,000～27,500円中心。

【東海地区】メーカー値下げ後もなお下げ余地残る

名古屋地区では、域内の電炉メーカーが前月末以降、東京製鉄の断続下げに追随する形で6回前後の購入価格改定下げを実施。輸出は現在、H2：FOB30,000円見当と見られているが、積極性に乏しい買いだけに現行値を大きく下回るものと見られており、成約量の増加は見込めないという見方が大勢を占める。H2炉前実勢価格は29,000～30,000円中心、高値30,500円見当。下げ幅は直近のピーク比で3,500～4,000円に広がった。

【関西地区】内外ともに環境悪化で先安懸念残る

大阪地区の鉄スクラップ市況は弱含み。23日から中山製鋼所がHS～H1のみ300円の価格抑制を行っており、月末を前にしての荷止め・制限買いの散発や、韓国向け輸出商談が地区市況を大幅に下回っていることも加わり、需給・価格面ともに下振れ圧力は高まったままと言える。23日時点でのH2炉前実勢価格は29,000～30,500円、一部高値31,000円。姫路地区のH2炉前実勢価格は28,000～28,500円。

（※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、10月23日午前時点のもの）

行事予定

■11月の主な予定

11月 6 日(木)～ 7 日(金)

・沖縄ブロック　自動車リサイクル士制度認定講習会

11月11日(火)

・第34回 産構審・中環審合同会議

11月18日(火)

・第 8 回 広報部会

11月21日(金)

・工場見学会

11月25日(火)

・第 2 回 ブロック長会議
・第34回 産構審・中環審合同会議

11月26日(水)～ 27日(木)

・中部北陸ブロック　自動車リサイクル士制度認定講習会

お知らせ

■会員数(2014年10月現在)

総数　**645**社 ／ 会員　**617**社、賛助会員　**28**社

■新規ご入会者のご紹介(2014年10月ご入会)

栃木県小山市
「**株式会社 ツルオカ**」様

栃木県小山市
「**有限会社 カーリサイクルホソノ**」様

三重県鈴鹿市
「**株式会社 マーク・コーポレーション**」様

沖縄県中城村
「**南風原自動車解体所**」様

■自動車リサイクル士合格実績(2014年10月現在)

資格の種類	平成25年度	平成26年度
自動車リサイクル実務士初級 (引取・フロン類回収工程)	4名	18名
自動車リサイクル実務士上級 (引取・フロン類回収・解体・破砕工程)	15名	20名
自動車リサイクル管理士	626名	88名

編集後記

偶然にも、10月は類似した2つのテーマの講演を拝聴する機会に恵まれました。1つは企業のパーティーの講演で「歴史に学ぶ継承と革新」であり、もう一方は組合組織の講演会で「歴史に学ぶ経営の本質」という演題です。講師はそれぞれ違う方で、もちろん話の切り口も違います。▲しかしながら面白いことには、双方の講演の中で取り上げられた歴史上の重要人物が2名共通していたことでした。その人物とはご存じ織田信長、そして坂本龍馬です。この両名は日本の歴史上の変革期の中でも特に活躍し、また理想的なリーダー像として現代でも突出して人気が高いとのことです。▲さて、いま時代は大きな変革期に突入しているというのが両講師の共通した見解です。我々が所望することはこの変革期に対する対処方法にあります。その答えとして「正しく歴史を知ればその中に見いだすことができる」、そして行動指針として「過去の成功体験を捨てよ！」と喝破されておられました。講演の拝聴後、思わず学生に戻ったつもりで歴史を勉強し直そうと焦ったのは私だけでしょうか。

(広報部会　部会長　永田　則男)